

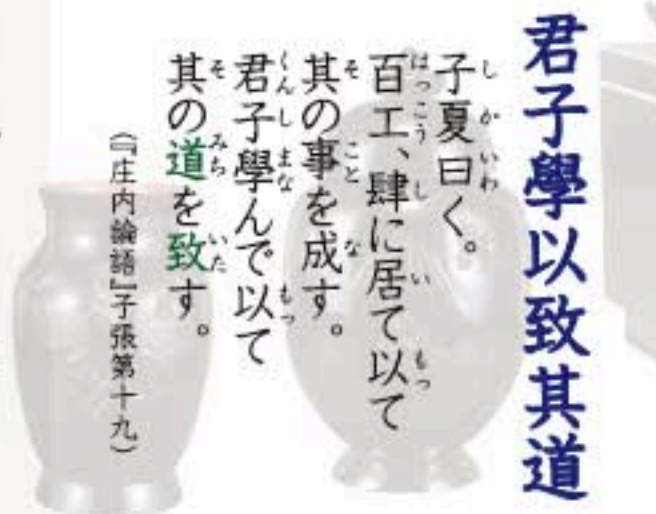
旧庄内藩主酒井家

美術資料展

平成31年3月15日金、4月15日月



致道館祭器（山形県指定文化財）
上：雀（じゃく）…杯の大きなもの
下：站（てん）…雀を載せる器



君子學以致其道

子夏曰く。
百工、肆に居て以て
其の事を成す。
君子學んで以て
其の道を致す。

（庄内論語「子張第十九」）

致道博物館構内にある「旧庄内藩主御隠殿」の明治初期頃の写真
江戸末期に建てられた藩主の隠居所「御隠殿」は、明治維新後には旧藩主酒井氏の居宅となりました。明治6年に廃校となった「藩校致道館」の祭器や典籍などは、その機能とともに此処に移りました。旧臣たちは松ヶ岡開墾事業に励みながら、寸暇を惜しんで学んだといひます。

酒井氏は徳川四天王筆頭の酒井忠次を祖とし、3代忠勝が元和8年（1622）に庄内へ入部しました。中興の祖と称される名君・9代忠徳は、乱れた風紀を憂い藩校致道館を設立します。その教育は、「人は生まれつき得手・不得手があるものだから、一人ひとりの優れている面を伸ばすようにしなさい」という方針でした。

明治時代、版籍奉還に伴い諸大名は領地を離れるなか、酒井氏は庄内にとどまりました。華族制度で伯爵となりますが、「文會堂」と称する学問所を設け、藩校致道館の「天性（生まれつき）の能力と自学・自修を重んじた教育」を尊ぶ“致道の心”を後世に繋ぎました。

戦後間もない昭和25年（1950）、16代忠良が地方文化の向上発展に資するため、土地建物および伝来の文化財などを寄附したことが致道博物館創立の由来です。

本展では、当館所蔵の致道館祭器（山形県指定文化財）のほか、旧藩主酒井氏に伝来した美術資料、並びに歴代当主の書画など、美術工芸品を中心に約30点を紹介します。



公益財団法人 致道博物館

〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町10-18
TEL: 0235-22-1199 FAX: 0235-22-3531
<http://www.chido.jp/> E-mail: chido@axel.ocn.ne.jp